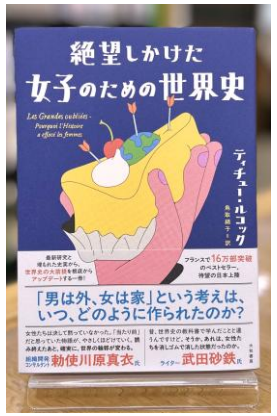
議会図書室からのお知らせ

☑ 本のタイトルには、出版社の本の紹介のリンクが貼ってあります。
出版社での紹介がないものは貼っていません。

今月の新着図書
R８年１１月（一般用）

『絶望しかけた女子のための世界史』

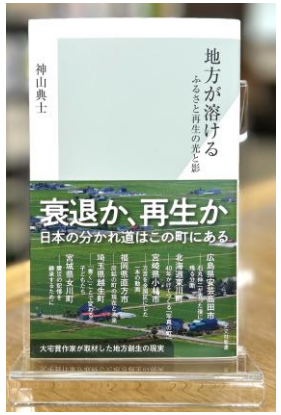
ティチュー=ルコック【著】鳥取 絹子【訳】/大和書房 (2026/3)



「女性は従属させられていたが、時代と共に解放された」女性史はそんなシンプルな物語と思っている人も多いはず。だが、本当の歴史はもっと複雑で面白い！ 歴史の大前提をアップデートする本。

『地方が溶ける ～ふるさと再生の光と影』

神山 典士【著】/光文社 (2026/5)



政治家・職員・地域住民らは地域を変えるために何をしてきたのか。
様々な取り組みの果てに、町には何が残ったのか。
埼玉県で移住生活を送るノンフィクション作家が記す、地方創生の現場の現実。

『「頭がいい」とは何か』

勅使川原 真衣【著】/祥伝社 (2026/2)



「頭がいい」とは、一体何を指す言葉なのか？
この曖昧で便利な言葉が使われる背景に、「能力主義」があると言う。評価され続ける「生きづらさ」を暴き、「ポスト能力主義」への道筋と「本当の知性」を探る！

『兵庫県告発文書問題 ～なぜ日本を揺るがすのか』

奥山 俊宏【著】/岩波書店 (2026/4)



兵庫県知事の疑惑を告発した文書が、日本の政治・社会を揺るがす事態に発展。
ジャーナリスト・研究者として公益通報に造詣が深く、自らも騒動に巻き込まれた著者が、事実関係を整理・検証。何が問題だったかを考える。

『「後回し」にしない技術 ～「すぐやる人」になる20の方法』

イ＝ミンギュ【著】吉川 南【訳】/文響社 (2021/1)



「すぐやる人」になるにはどうしたらいいの？
ゴールを起点に「今」を選択する「逆算スケジューリング」、始めさえすれば仕事は終わる「開始デッドライン活用法」など、心理学に基づく後回し回避術を紹介！

『わたしの農継ぎ』

高橋 久美子【著】/ミシマ社 (2024/9)



稼ぐためではなく、風景や知恵や種を受け継ぐために。
地元(愛媛)では農、東京では作家。チームで畑をして、時にバンド活動も。模索した新しい農の形とは。農業に限らず、あらゆる分野で継承の問題に奮闘する人へ贈る書。

『みんなの防災心理学 ～日常と災害をつなぐ』

矢守 克也【著】/ナカニシヤ出版 (2026/3)



「災害」を「特別」ではなく、私達の日々の暮らしに地続きのものとして考え、「みんなで助かる」ための視点を身につけられる心理学エッセイ。
コーヒーカップ片手に気楽に読める、防災心理学がわかる１冊！

インターンシップ参加学生選書

『アンチ・スポーツの哲学』

難波 優輝【著】/朝日新聞出版 (2026/8)



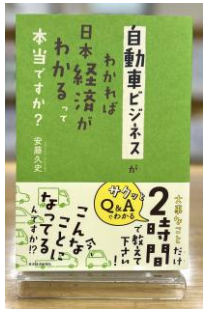
スポーツは人格を育て、勇気を与え、仲間を繋ぎ、連帯感を高めて国民を元気づける、と言われてきた。
だが、本当にそうなのか？ 美談の陰で覆い隠されてきたスポーツ観を問い直し、「本当のスポーツ」の姿を探る。

▶特別委員会シリーズ④「次世代産業」に関する書籍

新着

『自動車ビジネスがわかれば日本経済がわかるって本当ですか？』

安藤 久史【著】/東洋経済新報社 (2026/7)



なぜトランプ大統領は日本車を目の敵にするの？「トランプ関税」の何が怖いの？電気自動車とハイブリッド車、どっちが主流になるの？「自動車産業」の今とこれからを、テンポ良く理解できる１冊！

新着

『日経ムック 2050　産業の未来像』

ベイカレント【監修】/日経BP (2026/7)



産業構造が変革した先には、どのようなビジネス社会が訪れるのか？「エネルギー」「モビリティ」「ウェルネス」「ネットワーク」「ファイナンス」各分野の課題とその解決策を明らかにし、未来を予測する。

新着

『2075 次世代AIで甦る日本経済』

岩田 一政・日本経済研究センター【編著】/日経BP (2025/11)



日本を経済大国として維持するために必要なのは、「汎用AI」の活用だと本書は主張する。
日本を代表するシンクタンクによる、汎用AIと諸改革による経済効果を織り込んだ画期的な未来予測。

新着　インターンシップ参加学生選書

『AGI ～人間を超える知能は文明をいかに変容させるか』

髙橋 恒一【著】/講談社 (2026/8)



今、「汎用人工知能＝AGI」の出現が、目前に迫っている。「AI駆動科学」を長年追究してきた研究者が、悲観論にも楽観論にも与せず、客観的現状認識の元、いかに知能を制御し文明を再設計すべきか、その具体的ビジョンを示す。

図書広報委員がおすすめする一冊

『空想科学読本』シリーズ



【著者】柳田 理科雄/KADOKAWA (1996年～)



紹介者：鈴木　数成 委員

自由民主党・前橋市選出・１期

『空想科学読本』は、アニメや特撮の「お約束」を科学的な視点から大真面目に検証した笑いと学びの決定版です。「ガンダムの巨体は自重で潰れないか」といった無茶な設定を物理や力学で計算し、作品の魅力を解き明かします。
本作は好奇心を刺激するだけではなく、現実的なものへ変換するのに新しいヒントをくれる書籍であると言えます。突飛なアイデアも科学のフィルターを通すことで実証的な思考へと変わり、現実の問題解決に応用する視点が養われるからです。
理科が好きになるきっかけとして、中高生から大人まで広くおすすめします。

➡次号では、須永　聡 委員におすすめしていただきます！